

それでスカウトは満足ですか？

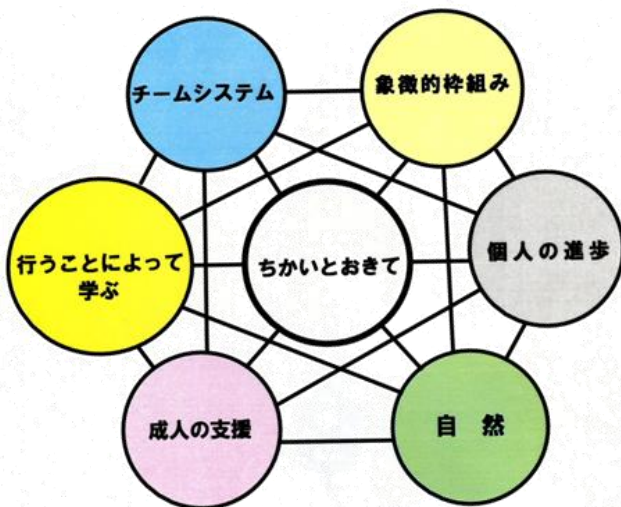
◇ロバート・ベーデン・パウエルによって考案された目的、原理、方法によって私たちはスカウト運動を推進しています。

世紀を越えてこの運動が世界的規模で発展してきた背景には、目的、原理、方法が明確に理解され、正しく実行されてきたからです。

◇国際的なこの運動が基本原則に基づき世界各国で共有化され、機能しプログラムが展開できるよう、「スカウト教育法」として以下の要素が示されています。

◇これらの要素は過去1世紀に亘り伝承されてきたことであり、私たちはフォーマル教育を補完するノン・フォーマル教育であるスカウト運動の要であるスカウト教育法の価値を再認識し、十分に機能させなければなりません。

(スカウト教育法)



標準隊の考え方

B-Pは「隊長の手引き」(AIDS TO SCOUTMASTERSHIP)の中で『一個隊の人数は、できれば32人を越えないことが望ましい。私が、この人数を勧めるのは、私自身が少年たちを訓練する場合、一人ひとりの性格を理解して引き出すにはせいぜい16名ぐらいしか扱えないことがわかったからである。そして、他の人なら私の倍はできるであろうことを考慮して、総計32名までということにしたのである。』と記しています。

現在ボーイスカウト隊の標準人数の理解はこの記述から伝承されたものと思います。しかしながら、理想とする32名を擁する隊はほとんどないのが現状であり、B-Pの言葉を借り、現実的にスカウト教育法を効果的に活用する視点で考えれば、競い合える複数のチームが存在し、スカウト教育法の要素を活かしたスカウティングというゲームができる適当最低限の人数と考えることもできます。

すばらしいゲームのために

「スカウティングは熱意を持ち、本気に取り組めば、すばらしいゲームである」とB-Pはスカウティング・フォア・ボーイズで少年たちに語りかけましたが、スカウト教育法はまさにこのゲームを行うための方法として、その国や地域にあわせながら、1世紀を経た今も輝きを持って時代に応じた形で進化し続けています。

このすばらしいゲームを展開するためにはチーム(班、組)が必要であり、この運動の特徴でもある、異年齢の少年たちが小集団である班を編成し、班は仲間同志の強い絆で結ばれ、自発活動と“ちかいとおきて”の実行の場になり、リーダーシップとチームワークが養われ、一人ひとりの人格を培う最良の方法であり、スカウト教育を成功に導く鍵であると言われる班制教育の大切さがここにあります。

人数が少ないために標準隊が構成できずに班制度が運用できなくなっているのか、スカウト教育法の正しい理解と運用がなされていないため、スカウティングの本当の楽しさや価値が醸成できずに人数が減少し続けているのか・・・

私たち指導者は常に「それでスカウトは満足ですか？」と問いかけながらスカウティングの原点を忘れずに、時代に合ったスカウティングを創造し推進していかなければなりません。『スカウティングは野外で行う楽しいゲームであり、少年の心を持った大人と少年たちが兄弟のように一緒に冒険に出かけたり、健康や幸福、ハンドクラフトや役に立つことを身につける場なのである。』(B-P)

スカウト教育法（Scout Method）とは

スカウティングの方法をスカウト教育法（Scout Method）というのはいくつかの異なった教育手段によって構成されているからである。

それらは次のとおり世界スカウト機構の憲章に定義されている。

スカウトの教育方法は、次のことを通じて行う累進的自己教育体系である。

◇ちかいとおきて

◇行うことによって学ぶ

◇小グループ（例；班）の一員となる。

これは成人の指導の下に、累進的な発見、責任の受諾、人格の発達を目指した自己陶冶・能力・自立・依存・協力と指導力等を身につけることを含む。

◇参加者の興味を基盤とした、いろいろな活動からなる累進的な活気のあるプログラム。

これはゲーム、役に立つ技能、地域社会への奉仕を含み、自然との触れあいのできる戸外の状況で行われる。

◇世界スカウト機構の憲章に定義された「方法」は憲章上の言葉であり、実際には次の7つの要素で構成されています。

これらの要素が互いに組み合わせられる時にのみ「スカウト教育法」として成り立ちます。

スカウト教育法の7つの要素

◇ちかいとおきて

スカウティングの原理に基づいている「ちかい」は、集団のルールを守ることを約束するだけでなく、自らの人生に責任、つまり自らが成長することを表明するものです。「おきて」、これらはこの運動に参加するすべての人が共有します。

◇チームシステム<小グループ活動>

ボーイスカウト部門では8名程度の青少年で「班」を構成します。この班はスカウトたちを管理するためにはありません。この小グループでの生活体験をスカウトたちが共有することで、各自が集団の中での適切な立場、役割を見出し、自分の意見を主張し、仲間の発言に耳を傾け、意思決定に加わっていきます。

◇行うことによって学ぶ

実行によって学ぶとは単に野外活動技能などを学ぶことだけではありません。例えば班での生活は他の人と関ることを実際的に学び、ちかいは約束を果たすことを学び、奉仕活動は時に連帯意識を生み出します。積極的に興味を持っていることに挑戦することは、結局問題解決の能力を伸ばしていくことであり、それは生きることを学ぶこととなります。

◇象徴的枠組み<シンボル...象徴的なものの活用>

象徴的なものの活用。「スカウト」とは20世紀初頭の森林生活者、探検家、猟師、船乗り、飛行家、開拓者、辺境移住者などのことです。この運動はこれらの人々の野外技術、未知の世界を冒険する技術を実践する方法をモチーフに少年たちに道徳心を芽生えさせるための活動を提案してきました。より豊かでより充実した人生を送るために、想像力を豊かにする、刺激することがこのねらいです。また、ユニフォームもこれにあたり、青少年が「私はスカウティングに参加している」と最も強く感じるのはこれを着用して活動している時です。

◇個人の進歩<段階的進歩>

スカウトたちはあらゆる領域で進歩をします。そしてその進歩の評価は誰かと比較することではなく、自分自身で設定した目標に対してどれくらい達成できたかということです。進歩は主に進歩課目として制定されており、青少年が目標に向かうことを動機付けるように設定されています。

◇成人の支援<青少年と成人の協力>

スカウティングが一つの教育運動であることは先に述べたとおりであり、この中での成人の役割も「青少年の成長に寄与する」ことであることを説明しました。しかし、これは単に成人(大人)が青少年を庇護するようなことではありません。そこには世代を超えた関係や挑戦により、互いを尊重し合う心が育まれます。成人にとっても一つの挑戦です。

◇自然

「野外はスカウティングの教場」であるといわれます。自然の持つ力を観察し、その中で生活することは自分たちの限界に挑むことです。また興味や楽しみもそこにはありますが、自然と調和を図ること、自然の相互依存を理解することは「環境」のための行動を起こす一歩にもつながります。

不易流行のスカウティング・・・伝承と革新のために

「幸福を得る本当の道は、この世の中を一人ひとりが受け継いだ時より、少しでも良くするよう努力すること」

スカウト運動の使命を達成する

スカウティングは熱意を持ち、本気に取り組めばすばらしいゲームである

スカウト教育法の7つの要素の理解を深める

スカウト教育法を効果的に活用するには複数のグループ(班・組)が必要

複数のグループが存在すればゲームが展開しやすくなる

スカウト運動は大人にとってはゲームを通しての教育である

「ちかい」と「おきて」の実践が基盤

スカウト運動の特徴である班制教育の理解と正しい活用

個人の成長を促す進歩制度の理解と正しい運用

成人の支援より良きスカウティングをより多くの青少年に

シンボルの活用

野外が教場

行うことによって学ぶ